

広報

# かわぐち

No. 64 1月  
昭和54年

発行 川口町長 青柳 弘  
編集 川口町役場企画課



+++++

## 去年は こんなことが

+++++



▶木沢小が百周年  
木沢小学校が創立百周年を迎え、関係者校区住民で記念式が行なわれました。  
明治十二年創立以来送り出した卒業生は千人余り、現在の生徒数は二十四人です。



▶錦鯉で農林大臣賞  
新潟県錦鯉品評会で武道窪の渡辺一さんが、農林大臣賞を確得しました。  
渡辺さんはこの道のベテランで、

「甚兵衛三色」は全国的に名を知られています。  
川口町で農林大臣賞は今回がはじめてです。



▲風船の旅  
木沢から太平洋へ  
木沢小学校の百周年記念行事で、子供達が手紙を入れて飛ばしたゴム風船が、福島県内で拾われ返事が届きました。  
それによると、飛ばして二時間後に会津高田町の栗木亭さんに拾われ、ここは直線で木沢から約九十kmになります。  
また、太平洋の新地町沖の海上で、今野一夫さんによって十七時間後に発見されました。  
風船は約二百km空の旅を楽しんだことになり、木沢の子供達はよい記念になったと喜んでいました。



▲文化遺産を調査  
高速度路用地内の埋蔵文化財を、工事前に掘り出そうと、県教育委員会によって町内五か所の地点が指定され、中山の古田島昭五さん宅地あとから調査がはじまりました。



### ▲東京―川口

ノンストップ駅伝  
田麦山マラソンクラブ(会長 森山正夫)では、東京川口間を休みなしで走りつづけるノンストップの駅伝に成功しました。  
皇居前から福祉センターまで走破した選手は、女性を含めて壮年から中学生までのクラブ会員で、日頃の練習と精神力が成功へ結びついたものと思います。

### 善意の人

#### ★社会福祉事業に

ミシン 二台  
野田 覚張定一さん  
木沢 星野平治さん  
ポータブル便器  
川口一 中林トキさん

★老人憩の家に  
かがみ(姿見)一面  
町戦傷病者福祉会妻の会

★保育所児童に  
教材用ブランネット 三〇〇個  
川口五綱 久松さん

#### ご注意

屋根の雪おろしで、電話線の切断に気をつけましょう。

# 年頭のごあいさつ

川口町長 青柳 弘



町民のみなさん、あけましておめでとございます。昨年、町政に対してあなたかご協力をいただき、心から厚くお礼を申し上げます。昭和五十三年は、国も地方も実

に多事多難の、波乱に富んだ年でありましたが、なかでも本町にとつて特筆すべきことは、なんといつても六・二六梅雨前線豪雨水害であります。復旧も未だ完全ではありません

が、これを克服した被災者の努力に敬服すると同時に、町も長期化したこの復旧対策に、職員二十名あまりを専門的に配置したことも前代未聞のことです。また、年末には関越自動車道の建設工事が始まりましたが、本町内では農地の二十八町歩を含む六十町歩という大きな面積の用地買収にあたり、地権者のみなさんのご理解と関係各位の熱意によって、なんのトラブルもなく調印が終了しましたことも意義ある出来ごとであります。

さて、昭和五十四年を迎えるにあたり、みなさんがそれぞれの目標をたてられたことと思いますが、わたくしも町政の担当者としての思いを新たに、町政執行に全力を傾けてまいりたいと存じます。ご承知のように、国の経済不況と社会不安は当面改まりそうもなく、依然として厳しい状態がつづき、国民的精力が必要であると予想されますので、こうした情勢を充分見極めながら発想の転換を図り、時代の流れに対応した行政を進める考えであります。本年は、農村基盤総合整備事業をはじめ、農村地域定住促進対策事業を導入して、農業経営の安定を目指すほか、雪の克服を含めた生活関連道路の整備改良及び公共事業の促進、身についた商工業対

策、きめ細かな福祉の充実、教育文化の振興、さらに小千谷市と提携して常備消防を新たに発足させ、消防及び救急業務を充実する予定であります。わたくしは、住民を主人公とした公正で民主的な行政を信条とし、住民参加によって斬新なアイデアを取入れ、従前の基盤をさらに充実拡大して、豊かで活力があり、あたたかいふれあいを大切にする、暮しよいくつくりを積極的に進める所存でありますので、一層のご理解とご指導をお願い申し上げます。年頭にあたり、各位のご健康と限りなくおしあわせを、お祈りいたします。

# 備化に



(写真説明) 魚野川畔での放水演習

長い間検討を重ねてきた消防の常備化が、いよいよ本年から実現するみとおしとなりました。

県内には消防が常備化されていない町村が十二あり、その中に川口町が含まれていましたが、救急業務をはじめとする予防消防等消防をとりまく環境が複雑かつ多様化して来たため、常備化に対する

県の指導や町民の要望も多くありました。しかし川口町だけでは財政的にも、また設置基準の面からも常備化は無理であり、すでに常備化がなされている小千谷市と当町が共同で実施できるように申入れ

を行い研究を重ねて来たところ、このほど両市町で合意に達し、すでに設立されている小千谷市・川口町衛生組合に消防の常備事務を含めて、衛生業務と同じように両市町の共同で実施することになったものです。

この結果、雪消えを待つ川口町地内に消防分署(出張所)の建設に着手し、秋には活動が開始されます。分署の最終的な規模は、必要な職員を配置し救急車一台、ポンプ自動車一台、連絡車一台で運営する予定です。

また現在ある消防団は今までどおり存置することになります。れておりますが、わたくしはその中であって、町民生活の安定と福祉の向上を図りながら新しい町づくりを意欲的に取り組む町当局としつかり手をとりあつて、川口町の将来のために、みなさまがたの代表である全議員の意思を尊重し、あくまで議会が公正に、公平かつ円満に運営されるべく鋭意努力し、みなさまの期待に応えたいと決意を新たにしております。

なにとぞ、みなさまがたの深いご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、厳しいご指導を賜わりますようお願い申し上げます。新年にあたり、町民のみなさまがたの限りなくご健康と、ご多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

# 小千谷市と共同で 消防を常備化に

## 新春を迎えて

議長 関 登代一



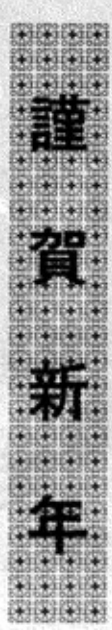
昭和五十四年新春を迎え、謹んでお祝い申し上げます。

町民のみなさまには、過ぎた一年をふり返り、心新たに希望と情熱を胸に抱いて、新年を迎えられたことと推察いたします。

さて、一年を静かにかえりみる時、昨年もまた多事多難な年でありました。

また、長期にわたった関越高速自動車道の設計、用地買収等の協議も町当局を始め、関係地域役員との並々な努力により、この結果をみましたことは感謝に堪えないところであります。国の施策による大きな事業により、当町も地域環境の変革を迫ら

る。さて、昭和五十四年を迎えるにあたり、みなさんがそれぞれの目標をたてられたことと思いますが、わたくしも町政の担当者としての思いを新たに、町政執行に全力を傾けてまいりたいと存じます。ご承知のように、国の経済不況と社会不安は当面改まりそうもなく、依然として厳しい状態がつづき、国民的精力が必要であると予想されますので、こうした情勢を充分見極めながら発想の転換を図り、時代の流れに対応した行政を進める考えであります。本年は、農村基盤総合整備事業をはじめ、農村地域定住促進対策事業を導入して、農業経営の安定を目指すほか、雪の克服を含めた生活関連道路の整備改良及び公共事業の促進、身についた商工業対



- 川口町
- 町長 青柳 弘
- 助役 岡村 賢吾
- 収入役 桜井 仁夫
- 議員
- 議長 関 登代一
- 副議長 山崎 良治
- 議員 小林 徹、小見 昇司、古田島正則、上村 正雄、網 直太郎、大淵 寅松、広井 松雄
- 選挙管理委員会
- 委員長 大淵 有澄
- 委員 榎 道隆、堀沢 政栄、古田島友一郎
- 国民健康保険運営審議会
- 会長 広井 松雄
- 副会長 星野 徳衛
- 委員 覚 定一、上村 一夫、山吉 玄蕃、阿部 長吉、関 弘藏、桜井 利男、小林 祥悟、内山徳四郎、栗原 稔、佐藤 靖邦
- 固定資産評価審査委員会
- 小西登久二、上村 一夫、桜井 浩弥

- 農薬委員会
- 会長 鈴木 時起
- 代理 山崎 義男
- 委員 山田 善夫、丸山家喜雄、岡村 一夫、山田 彦作、佐藤 馨、渡辺 重徳、保科 昇平、内山 五作、古田島勝司、星野 正作、小林 清吉、小見 武男、綱 富兵、山田 武司
- 監査委員
- 大淵 寅松、広井 松雄
- 農業共済損害評価会
- 会長 関 弘藏
- 委員 阿部 稔、渡辺 徳雄、涌井 勲、喜多村栄彦
- 民生委員
- 総務 村山 道寛
- 委員 桜井 藤雄、山吉 玄蕃、中林 友次、松村 昭次、吉田 紀子、久島 芳樹、小宮山豊次、山田 米三、阿部 幸吉、横 好子、星野 幸夫、大淵 広吉、森山 満茂、角張 八重
- 社会教育委員
- 委員長 丸山 池治
- 委員 中林 只二、山吉 勝治、綱 富兵、久島 芳樹、丸山 正、内山 等